NDB を用いたピロリ菌１次除菌率の性差と飲酒習慣の関連

○杉浦 彩方、尾関 佳代子 、羽田 和弘、脇屋 義文

愛知学院大学薬学部実践薬学講座

【概要】

2023 年 3 月 25 日-28 日、北海道大学で開催された「日本薬学会第 143 年会」に参加し、以下の研究内容をポスター発表した。

【目的】

ヘリコバクター･ピロリ（以下ピロリ菌）は慢性胃炎、胃潰瘍、胃がん発症の原因菌として知られている。2013 年よりヘリコバクター･ピロリ感染胃炎に対する除菌治療が保険適応となり、多くの患者が除菌を行っているが、除菌できない患者も一定程度存在する。ピロリ菌除菌の成否にはいくつかの要因があり、その中の一つに飲酒が報告されている。しかし、先行文献によるとピロリ菌除菌と飲酒の関連の方向は一定ではない。本研究では、200 億を超えるデータが累積されているレセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）の処方薬情報からピロリ菌 1 次除菌薬と２次除菌薬の使用数量を抽出し、そこから求められる１次除菌成功率と性、年齢、飲酒習慣との関連を検証することを目的とした。

【方法】

2016 年度、2017 年度、2018 年度の NDB オープンデータよりピロリ菌１次除菌薬であるラベキュアパック（400、800）、ボノサップパック（400、800）と 2 次除菌薬であるラベファインパック、ボノピオンパックの処方数量を抽出した。2 次除菌薬の処方数量を１次除菌不成功と考え、性、年齢別で１次除菌成功率を割り出した。また飲酒習慣に関しては、国民健康・栄養調査（2016 年～2018 年）を用いて習慣飲酒者（週 3 回以上飲酒し、飲酒する日は日本酒１合相当以上の飲酒をする者）の性・年齢別の割合を調査し、１次除菌成功率と比較した。

【結果と考察】

ボノサップ、ラベキュア、両剤ともに調査した全ての年度(2016-2018 年度)で男性に比べ、女性の 1 次除菌成功率は低く、特に、飲酒習慣のある人の割合が大きい 40 歳代女性の除菌成功率が低くなっていた。

先行研究で女性は男性より除菌に失敗しやすいこと（Moayyedi P, et al. Gastroenterology. 2019)、また飲酒習慣のある女性は除菌されにくいことが報告されており（Ozeki K, et al. Epidemiol Infect. 2019.)、NDB を用いた本研究との整合性が確認された。

【感想】

日本薬学会第 143 年会でのポスター発表当日は、私の研究に興味を持ってくださった多くの先生方や薬学生がポスターを見に訪れてくださり、私も一生懸命説明をさせていただきました。この場にいなければ出会うことのできない外部の方々から大変有意義なアドバイスやコメントをいただき貴重な経験となりました。また、他大学の学生や先生方の研究内容や視点は自分にはないものが多く、大変勉強になりました。今後、この経験を活かして、研究的視点を持った薬剤師になりたいと思いました。